

## 5. 水没戸数を少なくする可能性についての検討

足羽川ダム建設事業審議委員会からの意見を受け、現在の足羽川ダム計画に加え、ダム建設による水没戸数を極力少なくする可能性についての検討を行いました。

### (1) 検討にあたっての前提条件

現在の足羽川ダム計画は、ダムの高さは約80m、総貯水容量は7,180万 $m^3$ の重力式コンクリートダムです。この計画による水没戸数は約220戸です。

現計画におけるダム建設の目的は、①洪水の調節、②流水の正常な機能の維持、③都市用水（上水道および工業用水道）、④発電の4つですが、今回の検討では、これら4つの目的をすべて機能として満足させるケースと、河川管理者としてのダム建設目的である①および②についての機能を満足させるケースの2ケースについて行うこととしました。なお、後者のケースの場合は、③および④については、現地調査等の結果を待って③および④と合併して建設することが可能と判断された段階で検討することとしました。

なお、都市用水の必要性等については、別途利害者により検討がされています。

こうした前提に従い、現足羽川ダム計画から③および④の機能を除いた場合のダムの諸元は、ダム高さ約78m、総貯水容量6,520万 $m^3$ の重力式コンクリートダムとなり、その場合の水没戸数は約210戸となります。

#### \* 流水の正常な機能の維持：

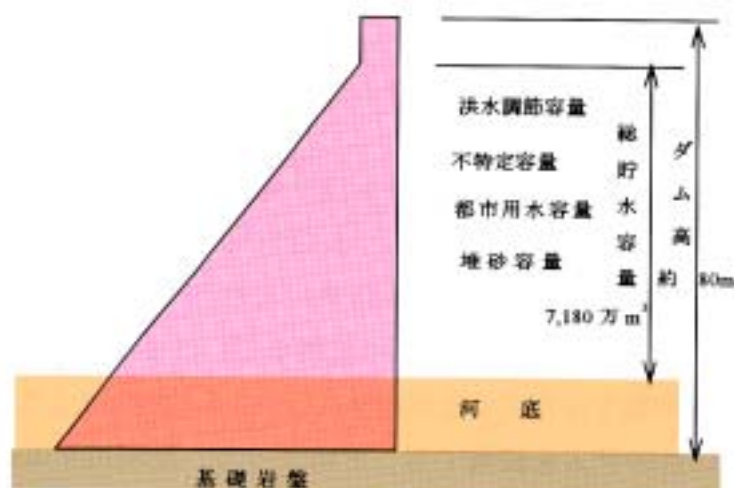
河川に一定以上の水が流れるようにすることによって魚をはじめとする動植物の生息環境を保全し、水質を良好に保つなどの機能を発揮させるとともに、ダム下流の既得の農業用水等が濁水時でも安定して取水ができるようにすること。



図-5.1 ダム建設予定位置図



写-5.1 ダムサイト予定地



水没戸数 約220戸

足羽川ダム現計画の目的別容量比率

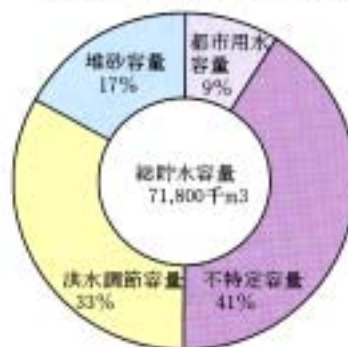
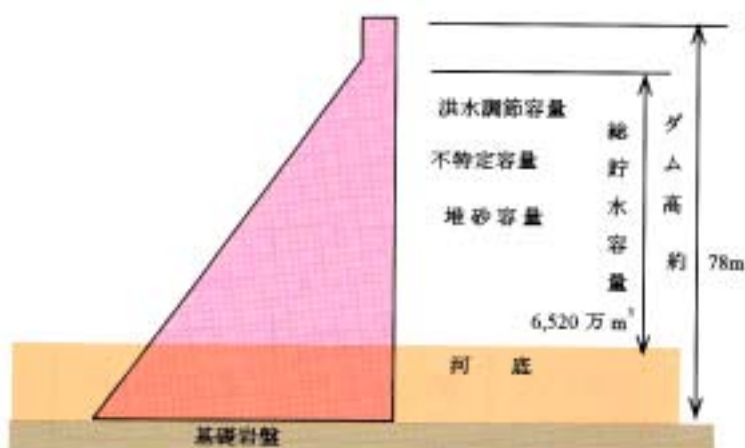


図-5. 2 現計画（多目的ダム）の貯水池容量配分図



水没戸数 約210戸

足羽川ダム治水目的の場合の目的別容量比率

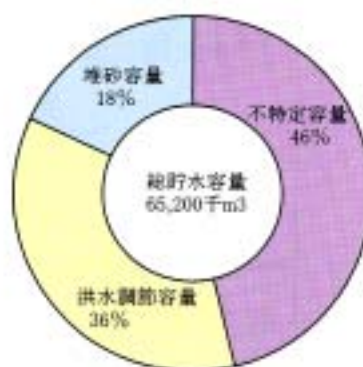


図-5. 3 現計画のうち河川目的だけのダムの場合の貯水池容量配分図

- 総貯水容量 : ダムに貯めることができる総量
- 洪水調節容量 : 洪水調節のために必要な容量
- 不特定容量 : 流水の正常な機能の維持に用いる容量  
(既得取水の安定化および河川環境の保全のための容量)
- 都市用水容量 : 上水道および工業用水道に補給するために必要な容量
- 堆砂容量 : 土砂等が堆積するのを見込み確保している容量